

学校法人津曲学園  
鹿児島国際大学短期大学部  
機関別評価結果

平成23年3月24日  
財団法人短期大学基準協会

## 鹿児島国際大学短期大学部 の概要

設置者	学校法人 津曲学園
理事長名	津曲 貞利
学長名	瀬地山 敏
ALO	西原 誠司
開設年月日	昭和42年4月1日
所在地	鹿児島県鹿児島市坂之上8-34-1

### 設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
情報文化学科		80
	合計	80

### 専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

専攻科	専攻	入学定員
専攻科	音楽専攻	10
専攻科	音楽演奏専攻	5
	合計	15

### 通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

## 機関別評価結果

鹿児島国際大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 23 年 3 月 24 日付で適格と認める。

## 機関別評価結果の事由

### 1. 総評

平成 21 年 7 月 27 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

「東西文化の融合」、「地域社会への貢献」を掲げる建学の精神・教育理念は、地域に根差した薰り高きものであり、教育目的・教育目標も確立している。

教育課程は体系化されており、学生のニーズにこたえる充実した内容である。特に授業評価に関しては、体系化されたシステムを構築しており、毎年学生へのフィードバックが行われ、授業内容、教育方法に改善の十分な努力がみられる。とりわけ、情報文化学科の従来のゼミナール形式の授業の発展形として、学生の「気づき」を大切にしているプレゼンテーション型の授業を増やしてきたことなどは大いに評価できる。

教員組織、校地・校舎面積ともに短期大学設置基準を満たし、教育の実施体制はおおむね整備されており、図書館、学習支援センターなど、地域の教育の拠点として機能している。

学生支援に関しては、併設大学との共用の組織・設備の中ではあるが、充実した支援が行われており、障がい者に対する環境も整っている。

教員の研究活動に対する援助も併設大学と同等に行われており、研究活動の活性化のための条件も整備されている。

社会的活動に関しては、地域社会に根差し、行政等とも連携した活発な活動を展開している。学生の社会活動への支援体制も積極的であり、地域のボランティア活動への参加も活発である。

理事会等の学校法人の管理運営体制は確立しており、教授会等の運営体制も確立している。事務組織も整備されており、人事管理も適切に行われている。

財務運営については適切に行われている。財務体質については定員充足状況、収支バランスなど課題があるが、十分な余裕資金を有している。施設設備については、短期大学に必要なものは十分に整備され、その管理も適切に行われている。

自己点検・評価活動についても、この 3 年間で実施体制は確立しており、改革・改善への努力がみられる。今後、次回の第三者評価に向けて継続して組織・環境づくりに取り組まれることを期待する。

## 2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

### (1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 学科ごとに教育方針（アドミッション、カリキュラム、ディプロマの三つのポリシー）を定め、履修要項、大学ウェブサイト等に掲載し、周知徹底を図っている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 「スチューデント・ファースト」というスローガンを掲げて、学生中心の「気づき」を大切にするプレゼンテーション型の授業を増加させ、教員も積極的に実務教育協会主催の研修会などに参加し、その効果を高める努力をしている。
- シラバスは多くの項目から成り、充実した内容を有している。特に、「前年度の授業詳細」の項目では、前年度のファカルティ・ディベロップメント（FD）活動の報告がされており、「前年度の授業の自己評価」の欄では教員の感想・意見等が記載され、FD活動の学生へのフィードバックが毎年行われている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- すべての施設に対してバリアフリー化を行うなどキャンパス整備を行っている。点字表示など、視覚障がいのある学生のための学習環境の充実に努めている。

### (2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

### 評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 専任教員数について、平成 22 年 5 月 1 日現在で短期大学設置基準上、必要な専任教員数が 1 人不足していたが、その後、機関別評価結果の判定までに補充された。今後このようなことのないように努めるとともに、当該短期大学の教育水準の維持・向上を図られることを期待する。

### 評価領域Ⅴ 学生支援

- 現在は学友会からのアンケートを通して、学生生活に関して学生の意見や要望の聴取に努めているが、学生が意見を直接学長等に具体的に伝えることのできる方法が追加されることが望ましい。

### 評価領域Ⅷ 管理運営

- 理事会・評議員会の構成員の内、短期大学からは併設大学と兼任の学長のみであり、学長は教授会に出席していないので、短期大学の意見が直接反映できるような環境づくりを望む。

### 評価領域Ⅸ 財務

- 余裕資金はあるものの、学校法人全体及び短期大学部門が支出超過であり、具体的な財務計画を策定し、財務体質の改善が望まれる。
- 短期大学全体の入学・収容定員の充足状況が低いので、充足率を上げるように努力されたい。

### (3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

### 3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

#### 評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

「東西文化の融合」と「地域社会への貢献」を掲げる建学の精神・教育理念は地域性あふれた特徴ある文化の薫り高きものであり、その背景、精神、教育目的などが履修要項、学生便覧などの配布物やウェブサイト等に掲載され、周知徹底が図られている。

これに基づく教育目的・教育目標は、短期大学全体及び学科ごとに教育方針（アドミッション、カリキュラム、ディプロマの三つのポリシー）として示され、学科会議及び教授会において日々点検が行われている。

教員間では教授会等において、学生に対しては入学式、オリエンテーションなどの機会に、教育目的・教育目標を共通に理解しようとする一定の努力がみられる。

#### 評価領域Ⅱ 教育の内容

教育課程が体系的に編成され、専任教員も主要な科目に適切に配置され、短期大学にふさわしい十分な内容とレベルを有しており、授業の単位認定も適切に行われている。また、教育課程改善への組織的な対応も十分行われている。

教育課程はバランスの取れたものであり、免許・資格等の取得への配慮も十分に行われ、学生の多様なニーズにこたえている。シラバスも十分な内容を有しており、特に「前年度の授業詳細」の項目では前年度のFD活動が詳細に報告され、FD活動の学生へのフィードバックも毎年行われている。また、授業アンケート、授業公開、学内専用ウェブサイト開設されたFDプログラムの活用など、授業内容、教育方法に対する改善への努力が十分みられる。

### 評価領域Ⅲ 教育の実施体制

専任教員の数は、平成 22 年 5 月 1 日現在で短期大学設置基準の規定より 1 人不足していたが、その後、機関別評価結果の判定までに補充され、短期大学設置基準を充足した。

各教員は学位、教育実績、研究業績、その他の経歴等、短期大学の教員にふさわしい資格と資質を有していると認められるが、教員の平均年齢は極めて高く、バランスが取れているとはいえない。併設大学との共用であるが、教育環境は十分に整備され活用されている。図書館も十分な施設環境を備えており、学生の図書館利用を活発にするための努力も行われている。図書館活動も活発である。

### 評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

授業の単位認定の方法、単位の取得状況はおおむね妥当な範囲であり、担当教員による学習評価は適切に行われている。担当教員は授業終了後の学生の満足度に配慮しており、授業アンケート等も学生へフィードバックされている。しかし、授業アンケートに関して、専任教員が担当する科目の中から前期・後期に最低 1 科目を実施というのは少なすぎる。兼任教員担当の科目も含めて一層の拡充が望まれる。退学、休学、留年等の学生の全体に占める状況も妥当な範囲であり、それらの学生に対するケアも十分行われている。資格取得の取り組みと実績も十分である。

専門就職に関しては、音楽科は短期大学としては高い専門就職の割合を維持しており、一見低く見える情報文化学科でも、パソコン作業を多くこなす事務系の仕事に従事している卒業生を算入すればかなり高い専門就職率になるとと思われる。卒業生に関する就職先からの評価の聴取、卒業生からの意見・評価の聴取、同窓会との連携等についても一定の努力がみられる。

### 評価領域Ⅴ 学生支援

大学案内・募集要項には、必要な事項は明示されており、分かりやすく記載されている。広報・入試事務の体制は整備され、多様な選抜が公正かつ正確に実施されており、受験生の問い合わせなどに対しても適切に対応できている。

入学者に対し学習及び学生生活のためのオリエンテーションは、ゼミ等の単位に別れて適切に行われている。学生便覧など学習支援のための印刷物は、学生に理解しやすいものとなっており、学習や科目選択のためのガイダンス等も適切に行われている。また、学生に対する支援体制は、組織、運用体制、設備などすべての面で十分に整備されている。

就職支援のための教職員の組織は整備され適切に活動しており、進路支援センターを中心に幅広い支援が行われている。また、障がい者に対しては、すべての施設に対してバリアフリー化を行うなどハード・ソフト両面において支援体制を整えている。

社会人については、特別に支援する体制はなく、長期履修学生制度もない。

## 評価領域Ⅵ 研究

教員の研究活動は、おおむね成果をあげている。教員各個人の研究活動の状況は各年度の自己点検・評価報告書の巻末で公開されている。科学研究費補助金等の外部資金の獲得実績はない。

教員の研究経費の支出は十分であるが、研究経費についての規程がなく、毎年文書により配布し公示される。教育の研究成果を発表する機会（研究紀要の発行等）は十分に確保されており、研究室・備品等も十分に整備されている。教員が授業、学生指導、その他教育上の業務以外の研究活動のために十分な時間を確保できるような配慮が望ましい。

## 評価領域Ⅶ 社会的活動

「東西文化の融合」と「地域社会への貢献」という建学の精神に基づき、社会的活動についての位置付けは明確にされており、地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業、正規授業の開放等が併設大学の「生涯学習センター」で活発に展開されている。

音楽科の学生による積極的な施設訪問、情報文化学科の学生による児童文学作家講演会の企画など、全学で熱心に取り組んでいる。また、併設大学と共同で各種サークルによるボランティア活動、大学祭での地域住民との交流が実施されており、ボランティア活動の意義が認められ、展開されている。

国際交流・協力への試みについても、併設大学と共同で海外の多くの大学と学術交流協定を結び、密接な双方向的交流を継続している。当該短期大学独自には、アメリカのクラーク大学との相互交流が長年にわたり継続されており、交流の意欲が示されている。また、音楽科の教員を中心に国際的な活動もみられる。短期大学への留学生の正規の受け入れや派遣はないが、同じ敷地内の併設大学のキャンパスでは大規模に行われている。

## 評価領域Ⅷ 管理運営

学校法人は寄附行為に基づき、理事長のリーダーシップの下、適正に運営されている。理事会は規程に基づいて開催され、学校法人の意思決定機関として適切に運営されている。監事は、学校法人の財産状況及び理事の業務執行状況について規程に基づいて業務を行っているが、2人とも非常勤である。評議員会も規程に基づいて開催されているが、理事会に比べて開催数が少ない。

理事会・評議員会の構成員の内、短期大学からは併設大学と兼任の学長のみであり、学長は教授会に出席していないので、短期大学の意見が直接反映できるような環境づくりを望む。教授会は学則の規定に基づいて開催され、教育研究上の審議機関として適切に運営されている。

「短期大学部」という組織名称のためか、学校法人としては併設大学の中での学部



の一つという認識であり、併設大学とは別組織としての独自性が発揮できない環境に置かれている。

併設大学と当該短期大学を合わせた事務部門の規模は妥当であり、事務諸規程等が整備され、それらの規程に基づいて適切に業務が行われている。決裁は各種文書取扱規程に基づいて、適切に処理されている。事務職員は学生に対してきめ細かな対応と親切的な指導を心掛けている。

学校法人は教職員の就業に関する規程を整備し、それに基づいて適正に処理している。教職員の健康管理、就業環境の改善、就業時間の順守等に関しても配慮がされている。

#### 評価領域Ⅸ 財務

事業計画及び予算に関しては評議員会を経て理事会で決定し、速やかに各部門へ通知され、決算は監事・公認会計士の監査を経て理事会・評議員会で適切に行われている。計算書類・財産目録は、監事・公認会計士の報告書を添付し、開示されている。資産・資金の管理運用については、寄附行為・経理規程に基づき適正に処理執行されている。また、学園広報誌『学園だより』に予算・決算及び事業計画・事業報告の概要を掲載し公開している。

短期大学部門の学生数が年々減少している。学校法人全体及び短期大学部門の帰属収支差額は2年連続支出超過である。余裕資金はあるものの、年々減少している。財務を中心とした中・長期計画、学校法人全体及び短期大学部門のグランドデザインが示されていない。

短期大学に必要な施設設備が十分に整備されており、固定資産、図書、消耗品及び貯蔵品管理、施設設備、物品（消耗品、貯蔵品等）の管理については、津曲学園固定資産及び物品管理規程に基づいて適切に行われている。消防対策、災害予防対策、さらにはコンピュータのセキュリティ対策も適切に行われている。省エネルギー・省資源対策についても一定の配慮が行われている。

#### 評価領域Ⅹ 改革・改善

従来、独自の形態で自己点検・評価活動を行い、平成5年度より『活動報告書（自己点検・評価）』という形で冊子を発行してきた。平成19年度より、本協会等のモデルに従って、自己点検・評価のための規程及び組織を整備し、冊子を発行し、定期的に自己点検・評価を行っている。同時に、全教員が冊子をよく読み、合評会で意見を出し合い、次年度の活動の改善につなげるよう活用している。

また、今回の評価を契機として相互評価のための組織・規程が整備された。これまでに一度、相互評価が行われており、相互評価の成果も適切に活用されている。